

最新ICT（情報通信技術）を活用した医療分野の取り組みを紹介する「第5回晴れやかネット研究会」が10月14日、岡山県医師会館三木記念ホール（岡山市北区駅元町）で開かれた。「地域に寄り添う、医療・介護ICT連携のあり方」がテーマ。総務省が進める医療ICT政策についての基調講演のほか、「医療ビッグデータの利活用と問題点」と題した特別講演、備前市、広島県呉市などでの先進事例の発表があり、岡山県内の医療・介護関係者ら約150人が熱心に耳を傾けた。

キックオフ・プレゼンテーション

晴れやかネット・クラウド型EHR高度化事業の取組

（一社）医療ネットワーク岡山協議会 常任理事 秋山 祐治 氏
川崎医療福祉大学 副学長

2013年に誕生した「晴れやかネット」は、県内の医療機関がセキュアな（安全な）ネットワークを通じて診療情報を共有する基盤だ。14年に拡張機能「ケアキャビネット」で医療・介護の多職種が情報共有できるようになり、今春には診療所や薬局などのレセプトコンピューターの情報を開示する仕組み「シェアメド」の運用を始めた。このように晴れやかネットはさまざまな機能を備えながら進化している。



双方向の情報連携を可能に

より多くの施設に晴れやかネットに参加してもらうために、基本機能のクラウド化を進め、電子カルテ改修などの設備投資の負担軽減を図る必要がある。本年度、医療ネットワーク岡山協議会は総務省の「クラウド型EHR高度化補助事業」を受託し、年度末までに整備を完了させる予定だ。

同事業では、小規模の病院・診療所の診療情報をクラウドで共有する仕組みの導入を推進する。また、現在は基幹病院の情報報を参照する一方方向の仕組みが中心だが、診療所などのレセコンや電子カルテを活用して双方向の情報連携ができる仕組みを強化し、地域医療圏内の患者バーセ率を向上させたい。